

2022
令和4年6月17日
第3号

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 就職内定 嬉しい報告



情報技術に精通した人材のニーズが高まっています。本校でも4月から就職内定者が続々と増えています。今回は、株式会社『ケーシーエス』に内定した 芦沢健太さん（勝田工高卒）、河野巧夢さん（水戸農高卒）です。二人とも「基本情報技術者試験」にも見事合格しています。



内定を喜ぶ 芦沢さんと河野さん（左から）

Q1 これからのIT活用と抱負？

A1 芦沢さん「ネットワーク技術を活かしていきたい」

河野さん「地域に貢献したい」

Q2 本校での学びと成果は？

A2 芦沢さん「信頼ある学校で、先生方に丁寧に教えて頂きました」

河野さん「プログラムの考え方など詳しく学べて良かった」

Q3 あなたの趣味は？

A3 芦沢さん「ソフトテニス」

河野さん「ゲーム、野球」

4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となります。

<記事> 茨城新聞（2022年5月19日）

「新産業の創造へ好機」

「22年度の県政の焦点」をテーマに、県内企業支援、IT人材育成や、新産業の創出・育成について前田了産業戦略部長にインタビューした記事。

◇要約

●小林優希さん（常磐大高卒）

本県産業の持続的な発展には、外国人材の活躍やIT人材の育成・確保が不可欠である。IT人材の輩出強化に向けて本校の機能強化を図るほか、データサイエンティストの育成支援に取り組んでいる。

◇感想

●吉岡勇樹さん（玉造工高卒）

「人材を増やす」「資金を増やす」「新技術を活用する」ことがいかに重要か分かった。カーボンニュートラルの実現に向けたIT技術者になれるよう私も努力していこうと感じた。

●小松夏希さん（水戸桜ノ牧高常北校卒）

IT人材育成のために、県立IT短大の機能強化を図る取り組みが行われていることを初めて知りました。まさに私自身のことだと思いました。この学校でどんどんスキルアップを目指したいです。

●外岡風斗さん（東海高卒）

資格取得だけでなく、県や国の課題を見つけ、IT技術をどう活かせるかを考え、行動できる技術者になりたい。

●原田 悟さん（石岡商高卒）

外国人材やIT人材育成が進んでいるということで、どんどんレベルの高い新産業へ発展しているということが分かった。

私もたくさん勉強して有為な社会人として頑張っていきたいと
思います。



2 実践演習で学び深める

本校では、IT企業の第一線で活躍された指導陣が、実践的な演習を行っています。今回は、ソフトウェア設計実習（単体テスト）です。



ソフトウェア設計実習で丁寧に指導を受ける学生

単体テストは、ソフトウェア開発の際に実行されるテストの種類の一つです。ソフトウェアテストにおいて重要な役割を持ち、その後のテストの効率や負担にも大きく影響します。ここでは、電気ポットのソフトウェアの単体テストを行っていました。

操作盤とその動作確認→



3 みんなの母校訪問！

歴史の重みを感じる創立112年の伝統校で、モダンな学び舎です。白土毅校長は「未来を牽引する豊かな人間性あふれる人材を育成したい」と熱く話されていました。本校に進学した学生に、温かいエールを送って頂きました。

茨城県立石岡第一高等学校
Ishioka First High School



白土 毅 学校長



茨城県立石岡第一高等学校



石岡一高卒業生
元気ですか？
基本情報技術者試験
合格！ がんばれ!! 校長

